



注目の 地域おこし協力隊

小浜・南越前・越前の皆さんに聞く

座談会参加者

- 小浜市 相澤 弘美さん
- 越前市 牛久保 子美さん
- 南越前町 荒木 幸子さん


「皆さんは、なぜ「地域おこし協力隊」の仕事をやろうと思ったのですか

相澤 私は宮城出身で、建築建設の設計事務所で図面ばかり書いていました。震災で実家の被害はなかったのですが、その仕事とルーチンワークに疲れて、何か別の仕事がしたいと思って迷っていた時に、全国の地域おこし協力隊の説明会があ

地域おこし協力隊について

地域おこし協力隊とは

- 制度概要：都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。
- 実施主体：地方公共団体
- 活動期間：概ね1年以上3年以下
- 総務省の支援：概ね次に掲げる経費について、特別交付税により財政支援
 - ①地域おこし協力隊員の募集等に要する経費：1団体あたり200万円上限
 - ②地域おこし協力隊員の活動に要する経費：隊員1人あたり400万円上限
(報償費等200万円※)、その他の経費(活動旅費、作業道具等の消耗品費、関係者間の調整などに要する事務的な経費、定住に向けた研修等の経費など)200万円)
 - ※平成27年度から、隊員のスキルや地理的条件等を考慮した上で最大250万円まで支給可能とするよう弾力化することとしている(隊員1人あたり400万円の上限は変更しない。)
 - ③地域おこし協力隊員等の起業に要する経費：最終年次又は任期終了翌年の起業する者1人あたり100万円上限



地域おこし協力隊導入の効果
～地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」の取組～

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を活かした活動
- 環境とする暮らしや生き甲斐発見

地域

- 新たな視点(ヨソモノ・ツカモノ)
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に大きな刺激を与える

地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域おこし策
- 住民が増えることによる地域の活性化

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
隊員数	89名	257名	413名	617名	978名	1,511名 (1,629名)
団体数	31団体	90団体	147団体	207団体	318団体	444団体

※各年度の特別交付税ベース
※26年度の隊員数のカウントは、名称を統一する「田舎で働き隊」の隊員数(118名)とあわせた隊員数である。

隊員の約4割は女性

隊員の約8割が20歳代と30歳代

任期終了後、約6割が同じ地域に定住
※H25.6末調査時点

り、福井県ブースで小浜市の方とお話して、観光の仕事はやったことなく、魅力を感じたので、応募しました。去年の1月から1年余りが経過したところです。

荒木 出身が横浜市で、親が転勤族だったので小学校の頃に2年弱ほど三国町に住んでいたこともありました。東京で5年間、IT関連企業に勤めていたのですが、3・11とか経験したときに、地域おこし協力隊に興味があったというよりも、地方に拠点を移そうかなと考えたのがきっかけでした。軸足を移すにあたって、いきなり地方で起業は難しいので、まずは試しにということから、そのうちにやろうかな、という気持ちになりました。

牛久保 高崎市出身で、東京で7年間働き、最後の2年半ぐらいをスカイツリーのある墨田区に住んでいました。近所の方がすごく仲のいい地域で、コーヒー屋さん、帽子屋さん、デザイナーの方とかも多く、よく飲んでいました。会社は好きでしたし、かっこいいと思って入ったけど、結局その看板を盾にしているだけで自分の看板じゃないよなあ、貧乏でもいいから自分の旗を立ててみたいと思っていたときに、地域おこし協力隊を知り、有楽町の説明会で越前市

の人が、すごくやさしい感じの人で、ほんわかしてて。ここならいいかもって。

また、「福井人」という本の編集に関わっていた友人が「福井いいですよ。」と、大野の「花垣」を一升瓶でドーンって持ってきてくれて。飲み始めたなら止まらなくなくなっちゃって、あ、もうこれ福井いくかもしれないって。

―赴任されている市町を選んだ決め手は何だったのですか。来てみて、福井はどうでしたか。



相澤 第一は小浜の人たち、もう一つは、パンフレットの中に好きな焼きそば寿司があつて。それ

に、母の実家の宮城県名取市の閑上（ゆりあげ）っていう漁港に雰囲気似ていて、山も近く、人も良さそう、食べ物もおいしいってことで決まりました。

荒木 南越前町は今庄宿の町並み保存プロジェクトが走っていて、私、学生とき、建築の歴史学を勉強していたこともあり、町並みの保存、建物を大事に、活きた状態で残すというものに、関心があ

りました。

前の仕事を自分のライフワークとしていいのかということにも迷っていて、もつと、自分の経緯に由来する仕事がしたいと思った時に、「建築」、「旅」、「歴史」とそういったキーワードと合致したのが今庄でした。

牛久保 イメージがそもそも無かった……。でも、人がいいとか、酒がいいとか、それは間違ってたなかった。冬が超寒く、もうヤダって思いました。暗いし、あんまり晴れてないっていうイメージ。あと冬の雷がすごい、あれ、怖いですよ。だから春の喜びっていうのは素晴らしかったですね。春って素敵って。

―みなさんが取り組んでいる活動について教えてください。

荒木 これまでの2年間は、今庄宿が中心でしたが、今年からは地方創生事業の一つで、「流動創生事業」という企画提案をしています。交流人口の増加という部分です。移住、永住のような思い込みをゴールとせずに、まずは人が流れてくること。その人が町に来たからと言って一生の終（つい）の住処になる訳はないと思うのです。いろんな人がいろんなライフ

ステージに応じて、住む場所や仕事を選択する時代だと思うので、それを推奨し受け入れることを地方創生の事業として取り組んでいます。

4月に9人くらい県外の人たちに来てもらい、地域をいろいろと見てもらいました。私のシェアハウスに泊まってもらい、観光というより仕事を作るとか、その地域の生業を見て、自分でどう生業を見つめるかみたいな観点で、農業とか、建築の維持とか、それらがビジネスにならないかを見てもらうという感じですね。

相澤 私は、観光振興の仕事ですが、とりあえず去年は小浜市内を見てフェイスブックやブログでPRでした。今年は去年観られなかったものを見つづ、具体性を持って、旅行会社、ホテル、お店を捲き込んで進めていこうかなと思っています。

小浜では「ちりとて落語の会」という寄席を毎月1回やっているのですが、自分が着物を着るのが好きということもあり、そこに着物で聞きに行こう、街中歩こうっていうお誘いを続けています。2月から始めて2、3人から増えてきています。次はそれを街中のイベントにくっつけて、着物でジャックみたいなことをやってい

けたらと楽しみにしています。

あと、会場がここ（アトリエにじのわ）で、6月から隔月に1回、「夢わか市（マルシェ）」っていう手作りの、オーガニックマーケットみたいなものとか、楽しいことなど、人と人、物と人が繋がってらうっていう催しをずっとやっている方々がいて、今年からその実行委員会にも入らせてもらいました。新しく作るのもいいですが、今までやってきた人たちの活動を盛り上げていくのもいいなあと思っていますね。



牛久保 去年の10月からで8か月目ですが3つの活動を始めています。市からは中心市街地の活性化

としか言われなかったもので、じゃあ、何してもいいんだと思って、好きなことやっています。

今住んでいる家が築80年くらいで武生駅から5分のところなんです。最初はアパートを紹介してもらったけど、味気ないなあ、と思って、「古い家住みたい」と歩いて回りました。私も、市の人も調べたのですがピンとくる物件が無くて、歩いて疲れたからお昼にしようかって入った食堂の目の前に「貸家」と手書きの張り紙の家

があったのです(笑)。ここいいすね、と住む家が決まりました。一人で住むには広いので、いろんな人が集まれる場作りをしたいなと自分たちで床張りしたり壁塗ったり、改修しながら、新しいコミュニティの創造へのなにかができたらいいなってというのが活動の一つです。

二つめ、旧料亭の「春駒」というのがありますが、「市で貸しスペースとして貸してるけど、あまり人來ないんだよね。」って言われて見に行ったら、喫茶スペースがすごくこじんまりしていていい雰囲気でした。

ここで新年会しましょうかと、市役所の人や友達を呼んで新年会をして、2次会で、スナックやってみようかと盛り上がり、「スナック春駒」っていうのをやったら、なんか楽しかったので、料理の上手な友達を呼んで一緒に月イチでスナック春駒っていうのを始めました。そんなことをしていたら、そこにも知り合いの知り合いみたいな、誰これ?みたいな人が入ってくるようになって。みんなが気軽に集まれるような場所がポツポツ街中にできてくれば、変な人、面白い人が集まれば、楽しい賑やかなことができるんじゃないかなって。

あともう一つ、蔵の辻の「壺の市」っていう10年くらい続いている月イチマーケットに4月から関わり始めました。タイトルを毎月決めて、それに沿った季節感のあるマーケットをしようって、先日、水無月の古本市っていうのをやりました、そうして県内外、いろんな人たちが知り合ってコミュニティが広がるというのが面白いなって思っています。

今まであった既存のものを、私たちって外部から来たので、視点があたぶん違う?ずっと住んでいる人たちには見えないものが、こっちから見たら実はかっこ良かったり、大切なものがそこにあったというのを、ただ面白いなって自分が考えた感覚で、やっていこうかなって思っています。

「外から来て見て地元の人たちと見方が違う」という話が出ましたが、そのことでは感じることとはありますか。

相澤 私こっちは来てびっくりしたのは桜が早い。うち宮城県だから。ビックリしました、卒業式から入学式まで桜がある、どういうこと?みたいな。私が広報小浜で出している写真を見て、あ、そういうところあつ

たね、とか。それどこで撮ったの?って聞かれるようなこともあって。当たり前すぎて知らないうっていか。それを私が知らせている。面白いなあ、と。県外の方とか県外の友達とかをアテンド、紹介して歩いた時に、驚かれたことなんかも伝えたりして喜ばれる感じですね。



荒木 地域の人が地域の素材を住んでいるのに知らないことがよくあって驚きます。まちづくりの

観点と、住む所として地域を見るのはそもそも目の付け所が違うのかな、と。

逆に、地域の人たちが最高だね、みたいなことを言ってるけれど、そんなに特別でもないみたいなのもあります。田舎で不便でみたいなことに関して、全国で比べたらそんなに田舎でもないみたい。そういう意味での外部目線も入りますね。

福井という単位であれば、まあ田舎でいいところ、自然がきれいだよ、水がおいしいよねっていうのはありますが、同じような所は全国にも多くあるので、その中で一等賞目指しちゃいけないと思うのです。

引つ込み思案な人は、守っているし、踏み出しすぎちゃった人はうちの町一番でしょ、みたいなところもあって。落ち着いて(笑)冷静に、戦略的にいければなって思えますね。

「福井県とか、市町で、何か足りない点を感じることはありますか。」

相澤 この前、日本遺産に小浜若狭の鯖街道とその歴史が認定されたのですが、それに併せての連動が弱く、実際に日本遺産の18件の一つに選ばれたものの、地元では、「はて?」みたいな。

せっかく、歴史群とかになっっているのに、これってうちも関係するの?みたいな問い合わせもあつたりして、そういう意味の連動、連携性、っていうのはちよつともったいないなって感じるときはあります。

こちらは、黙っていても「察してねっ」という文化なのですかね。お互いにそう思っているのかも知れないですが言ってくれなきゃわからない。ちゃんと喋って教えてほしい。こっちは聞きますから(笑)って思います。

牛久保 例えば武生を中心市街地で言うと、あんまり商売っ気がな

いので、喫茶店とか入っても、誰やお前、みたいな顔をされるんですよ。私、前職で飲食の店長とかもやっていたので、気になっちゃって。この接客でこのクオリティで、これか、とか。デザイン性とかひどい。なんでこんなところにベタベタポスター貼るのとか。何ていうんだろう。懐に入るまで仲よくしないよ、じゃなくて、ある程度、接客だったりおもてなしだったりっていうのを、もう少し目を広げてほしいなって感じます。

それに、やっぱね、ダサイものが多い。福井にはすごくカッコいいデザインをする方たちたくさんいるのに、それが台頭してこない。なぜかと言うと、おばちゃんたちの世代がまだそこに気付いていないから。もっと、そういうデザイン性とかでどうやってアピールしていくかっていうのを考えないと、生き残れないと思います。

福井駅のベンチに座っている恐竜博士とか、邪魔ですからね、いいじゃない。もうちょっとセンスを磨いてほしい。センスのいい人。いい職人、デザインすごくカッコいい方たちのことを、ちゃんと伝えられるようにしないと。

そういう人達は、福井の人はわからないから東京行っちゃえとか、世界に売ろうとかとなっちゃう。

だから、もっと地元の人たちが、その良さを認めて、そこを発展させていけば、すごく面白いと思いますよ。

今まで地味だったからこそ。財産も人材も多いので、それを私たちが掘り起こせる喜びっていうのは、超楽しいですね(笑)。で、ダサイって言えるのがね、結構気持ちいい(笑)

荒木 連携もそうだし、遠慮しがちっていうのはありますね。横を見て遠慮しちゃうので、突き出る人がいない状態なのかもしれないですね。

やりたいことある人はいるけれども、あくまでみんなの合意形成が前提という感じ。そこはもっと取り組みが多様であつてもいいのかな、と。周りがある程度見るのも大事だけど、飛び抜けている人のことを、応援するとか放任するのも大事だし。

あと、いろんな地方もそうですけど、やっぱり補助金に頼るところですよ。お金がないと不安はあるかもしれないけど、なくてもできることはいっぱいあつて、これからは、そういう方法を考えないといけないですよ。収益を自分たちで作る、そういう視点は、福井県の人たちにも持ってほしいです。

—この活動をやっているの面白さ、楽しさは、どのようなことですか。

牛久保 わくわくするっていう基準をブラさないでやっていると楽しい。自分の好きなことを「YES」って言うことができる。その代わり責任はとらなければいけないと多少は思っているけど、「これと多少は思っているけど、「これやっていかん」とか何とか言われても、実績とか、写真とかを見せ自分の活動を認めてもらう。そういうことができるから楽しいのかな？

いろんな人と関われる機会があるのは、すごく面白い。例えば、近所のおばちゃんが、朝に新聞の

切抜きを「あんたが載ってたよ」と届けてくれる。そういうのは嬉しいですね。暖かく見守っていただいていると思います。

相澤 私も楽しいです。昨年1年間は、市役所から好きに見ておいでと。今も、放置に近いですけど。その間に市役所から「どうしてここまで人脈作ったの。」って言われるくらいになって。それを今からどうやって実績としてアウトプットするのか悩みます。楽しさややりがい、観光の仕事でのものか、ここで暮らしているからなのか時々わからなくなります。

荒木 東京での勤めではできない経験をしている感じがありますね。地域おこし協力の立場ってすごく曖昧というか、定義もアウトで。

私は、役所に近いプロジェクトに入っていたりもするので、住民からは役場職員の立場で捉えられていることもあり、役場の気持ちもわかるので、その代弁をしたりとか、逆に、役場に対して、住民の側に立つこともあります。

だから、公と民、あるいは都市と地方の間を私は行ったり来たりします。地域の方に対して、都市側の目線からものを言うこともあるし、都市側の人に対して、今庄



NHKラジオ出演

の人間として、何かいう事があつたりする。楽しみというより、いろんな学びに近いのかもしれないが、なかなか他ではできない苦しみと、ジレンマと、ありえない経験と学びを得ているな、という感覚はあります。

「地域おこし協力隊」の皆さんが考える地域おこしってなんでしょうか。

荒木 私はもともと「地域おこしって何？」と思っていたところがあります。だって、地域って、今庄という地域も福井県という地域もあるし、日本、アジア、世界といろんな地域があり、そもそも定義ができない。

「南越前町」という地域も、ただの行政区。で、起こすって言うたって、みなさん生きてらっしゃるし、私は地域おこしなんて無いとも思っていて、そこにあるのは、ひとりひとりの幸せとか満足とか、それが、いい状態にあるように？という感じです。集合体なので、不幸せな人たちもいる。地域おこしをしていますと言っても不幸せな人たちはいる。その一人一人が、幸せになるために、公の立場ができることであつたりとか。最終的には、私たち協力隊の人間にだっ

て自分の幸せがあるわけで。だから、地域おこしの定義は、私にとつてあまり意味がないのかも。

相澤 都市部から、地方の色んな地域へ行くじゃないですか。そこで地域おこし協力隊の人たちが作るものって似てきているのですよ。その人のイメージする田舎って、だいたいがテレビの旅行番組や、ジブリなんかのイメージでできていて、その地域の元々の生活とは違うイメージに向かって動いてそれを地域おこしです、上手くいってます、っていう人もいるけれど、違うんじゃない？って。

そこにある生活をその状態で続けていけること。それが地域おこしって言うとな変な言い方なのかなあ、って思ったりもして、もぞもぞしているようなところがあります。一過性のものを喜ばれていると、そうじゃないよなあ、って。牛久保 個人的には、地域おこし協力隊の制度にはあまり興味はなくて、さっき言ったように見方の変化だけだと思っっています。元気がないっていうか、ちよつと循環が滞っているというか、例えば、本当はこうやって回っていると、このコミュニティって、いつでも元気っていうか、わくわくするよね、楽しいよねっていう状況が、例えば、何かが少し崩れて止まってい

る。そういう点を直したり、みんなが気づかない、カッコいい石、その石を拾って、磨いて、戻す、みたいなのか。そういうことなのか、って思いますね。

私たちは新しい風というか、見方を変える、空気をちよつと抜く係なのかと思っっています。気づきの変化さえあれば、変わる場所もあるし。

ただ、地域おこしっていうネーミング自体がグサイイと思う。他になかったのかと。私の越前市なんて、あんまり覚えてくれないのですよ、皆さん。「街づくり協力隊」とか、「まちおこし協力隊」とか。もう、なんでもいいのだけど応援隊とか言われて、私たちのやりたいことを応援してくれるんだねと言われると、それはちよつと違うし、なんか、定義づけ難いですね。

「今から進めていく活動はなんですか。」

荒木 全国各地に出向いているんな地域を何人かで相乗りして外交する「ラウンドトリップ」という事業を企画しています。まず地域の人たちを乗っけて今庄を出発して、次の地域で交流する、その地で何か仕事をして、泊まっ

その特産品を背負って次の地域へ移る、それを繰り返してとんとんと移動していくのです。キャラバンサライラウンドトリップ、と長いですね（笑） 巡業ツアー？ サーカスみたいな。

6、7人の少人数だけれども、いろんな人が乗ったり降りたりしながら、他の家用車の軍団も引き連れて。1週間から10日くらい、6、7か所くらい廻りたいと思っています。



冷やしツアー

相澤 秋口にかけては実行委員で参加するイベントが集中しています。「夢わかマルシェ」が6、8、12月。海のシルクロード音楽祭は10月17日。全国女流落語大会が9月の26、27日。その合間に開かれる地区のお祭りもPRしたいと考えています。

小浜の地蔵盆で火のついた松明をぼんって放り投げて、トーチに火をつける「松上げ」ってお祭りがあるので、それを見に昨年

京都から来た女性がいました。私
が「観光ですか」って声かけたら
行き方がわからないと言うので、
仕事後に車で待ち合わせ、写真が
趣味と聞き夕日のきれいな海岸を
案内し、その後に「松上げ」見せ
て送りました。その方、今年も来
たいと言ってくださり、ちっちゃ
なお客さんというかファンを作っ
て、それがお祭りごとで出来たら
いいなと。小浜と福井のファンを
増やしたいです。

牛久保 私は、蒔いた種が幾つか
芽が出始めているので、その芽を
どうやって伸ばすかというのが課
題です。

壱の市も、1年間、テーマ付き
をやってみて、2年目も同じ形態
でいくのか、どうしたら発展でき
るのかを考えたいし、家もリノ
ベーションしながら、ちよいちよ
い何か企画して用途を考えていき
たいな、と。「春駒」のほうも夏
は他のところとコラボレーション
しながらすこし大きいのをやって
みたいですね。

地元で活躍している若手メン
バーが結構いるので、その人たち
と、今後どういったプロジェクト
やビジネスができるのかを話し始
めているところで、秋口までには
面白い形が出てくるのかな。

―行政との関係も深いと思いま
すが、自治体や職員に対して
の要望や意見など聞かせてく
ださい。

牛久保 行政が変わらないと町は
変わらないと思うので、固い頭は
早くやわらかく(笑) 本当にそこ
なのです。法の解釈とか平等と言
いながら、そこで規制をしている
のは行政自らであって、街づくり
や地域おこし活動の中で求められ
ているのはその問題解決かなと
いう気がします。

法のジャッジって結構影響が
あって、それをいかに調整するか
とか。補助金の話ではなく、こう
いうバックアップがありますよ、
とか、こういう解釈をしたらでき
ますよね、とか、そういう改革が
できるのは行政しかありません。

私たちは、外から来た人間なの
で、多分、違う視点があるから、
それを提案する。資源を持つてい
る人、スキルを持つている人たち
は、それを自分のできる範囲でや
る。行政は、住んでいる人たちが
そういう自由な活動をするために、
それをまとめながら、法の解釈や
規制緩和をどうルール化していく
のか、頭をやわらかくして考えて
ほしいです。

相澤 自治体側は住民が何でも

知ってて当然みたいな感じで言う
ことがあるのですけど、それは当
然じゃない、知らない事のほうが
多い。

例えば、キャンペーンを打って、
旗を立ててくださって頼む。そ
れで、みなさん一生懸命旗を立て
てくれたのに、その後に場所が悪
いから撤去してください、とか。
そうじゃなくて、幟を立てる前に
アナウンスするとか、先に立てる
予定を聞いて必要な手続きをする
とか。そうした介添え的な？そう
いうものが本当に、自分たちの専
門だけ、それがどう他のどこに影
響し合っているのか、お互い無関
心なことが多いですね。

だから、その縦の壁をナナメに
突っ切っていく感じになると
きがあります。それができるのも、
この立場かなと思います。

私の感覚は民間だから、行政の
当然っていうのは、それとは違う
仕事、違う生活をしている人から
したら全然違うってことを解った
上で動いてほしいっていうか、仕
事してほしいです。

荒木 私は小さな町だから行政
は大変だなとすごく思いますね。

市町村合併で自治体が大きくなっ
て、職員が減って、一人ひとり、
今の守りの仕事だけでも精いっぱい
になっっている。

それでも、住民は今までと同じ
ように動かし、行政を頼りにもし
ている。行政の役割も昔とは違っ
てきているはずですよ。人口減
少も地方創生もありますけど、職
員の一人ひとりが、町をなんでも
動かせるわけじゃなくて、住民側
の理解も必要だと思います。
しだいに民間にパワーが移動し
ていくと思うので、本当はまちづ
くりも行政の仕事なのかって疑問
に思うのです。民間側がやること
で、行政はベースを守る側じゃな
いかって。

地方では、民間の業者がやる役
割みたいなものも、結構、行政が
守っていて。でも、それでは、立
ちいかなくなってきて、行政も苦
しいっていう中では、住民の理解
の上で、ベースを守る、サポート
の部分をしっかり守るとか。どう
なんでしょう。

自分たちでイベントや祭りをす
るっていうこともあるわけですが
ど、そこをどう切り分けて、守る
のかというのが、大事ではと感じ
ています。

おたがひ中あひがみびら
ました。

編集部 (中村 出蔵 伊藤)